

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 野村紀代彦
幹事 山下雅則
会報委員長 藤井邦彦

2021 ~ 2022年度 国際ロータリー シェカール・メータ 会長テーマ

Serve to Change Lives 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第3133回例会プログラム

[当年度=10回目; 当月=4週目]

2021年(令和3年)10月25日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

12:00 〈食事〉

12:28 1. チャイム

12:30 2. 点鐘……〈会長〉

3. 開会宣言

4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も

5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

6. 会長挨拶並びに会長報告

7. ポケトーク感謝状授与式

……刈谷市教育委員会

教育長 金原 宏様

8. 幹事報告

9. 出席報告

※第1四半期皆出席の発表(出席委員会)

10. 委員会報告

11. ニコニコボックス報告

12. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(11/1)

卓話「生涯スポーツを推奨する整形外科
クリニックの取組み」講師 医療法人社団大須賀医院 おおすが整形外科
院長 大須賀 友晃様

(紹介者 神野 公秀 会員)

(11/8) ……

クラブフォーラム(米山記念奨学委員会)

卓話

講師 米山奨学生 劉 百恵さん

クラブ米山記念奨学委員長

新海 伸二 会員

2. クラブフォーラム……………〈国際奉仕委員会〉

13:00 卓話「教育現場における外国人児童生徒
の現状について」

講師 刈谷市立かりがね小学校

日本語教育指導員 中本 幸志様

(紹介者 伊藤 節夫 会員)

13. 謝辞

14. 点鐘……〈会長〉

15. 閉会宣言

13:30 16. 散会

ゲ ス ト

刈谷市教育委員会 教育長 金原 宏様

出 席

会員総数 98名 出席免除 24名

出席義務者+免除者の内例会出席者 89名

欠席 7名 出席率 92.13%

前々回(10/11)の修正出席率 100%

会 長 報 告

1) 10月21日木曜日、社会福祉法人刈谷市社会福祉協議会くすのき園にて、地区補助金事業を開催し、寄贈式並びに利用者が寄贈品を使用した模擬体重測定に11名のメンバーで参加してまいりました。そして社会福祉法人刈谷市社会福祉協議会会長 杉浦芳一様より感謝状を頂きました。

幹 事 報 告

- 1) 行政の基準緩和に伴い例会会場をもとに戻すことに致しました。ただし当面の間、食事時間は12時からの黙食と致します。声楽につきましても現在は制限がありますので当面の間、心の中でご斉唱願います。
- 2) 本日、関係の会員の地区大会プログラム冊子・名札を配布させて頂きました。プログラム冊子の2~3ページの新型コロナウイルス感染防止対策実施要項をお読み下さい。今週、刈谷駅の集合時間等のご案内を事務局よりお送り致します。当日は丹羽副幹事が引率致します。
- 3) 本日例会終了後に特別会議室にて第5回理事会を開催致します。関係の会員はご出席をお願い致します。

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

委員会報告

●社会奉仕委員会

- 1) 10月初めの例会で、「佐賀・長崎豪雨災害」への義捐金へのご協力をお願いしましたところ、皆様から65,000円のご厚志を頂きました。早速、取りまとめて下さっている地区の方へ送らせて頂きました。
- 2) 先週の例会で、「赤い羽根共同募金」へのご協力をお願いした件ですが、皆様から71,000円ものご厚志を頂きました。早速、刈谷市共同募金委員会の方へ送らせて頂きました。

●国際奉仕委員会

- 1) 本年度の国際奉仕委員会活動では刈谷市内の小中学校にポケットク(翻訳機)を8月に30台を寄贈致しました。市内の小中学校には外国人の児童生徒が400名在学中です。フィリピンをはじめ、ブラジル、中国、ベトナムのほか10ヶ国の児童生徒が勉学に励んでいます。ただ、言葉の壁があり今回寄贈致しましたポケットクが役に立つことを願っています。明後日の27日(水曜日)かりがね中学校で野村会長をはじめ山下幹事、藤井クラブ会報IT委員長、丹羽公共イメージ向上委員会副委員長と伊藤の5名でポケットクの活用を見学してまいります。

●親睦活動委員会

- 1) 今週の10月28日木曜日にゴルフ同好会、合同ゴルフコンペを開催させて頂きますが、名古屋高速3号大高線が通行止めとなっています。名古屋第2環状自動車経由の中央道でもお越し頂けますが、混雑が予測されるため、東海環状経由が推奨です。よろしくお願ひします。

会長あいさつ

野村紀代彦



皆さまこんにちは、今日も例会にご出席頂きありがとうございます。

この地域は国際的に活躍してみえる企業が多くこの地域で働いている外国人の方も多くみえます。当クラブにも海外経験豊富な方もみえますし外国の方とのコミュニケーション

も問題ないと思いますが教育の現場ではいろいろご苦労が多いようです。そこで今年度の国際奉仕事業として教育現場で外国の子供とのコミュニケーションの助けとなるように携帯翻訳機のポケットクを市内小中学校に30台寄贈することにしました。本日は金原教育長様とともに中本先生にもおいで頂いていますので教育現場の状況をお話し頂けると思います。

さて時代とともにいろいろなものがどんどん便利になってきています。車に乗ればナビが目的地まで案内してくれますし自動運転になる日も近いかもしれませ

(2)

ん。テレビ、エアコンなどのリモコンがあればソファに座ったまま動く必要はありません。スマートスピーカーのアレクサに話しかければ大概の用事はすんでしまいます。調べ事があってもスマートフォンで検索すれば辞書や辞典をめくる必要はありません。若い頃はドライブする前には地図を一生懸命調べ、道を覚えて運転していました。今はこのような手間がいらなくなりどんどん便利になる中で果たして私自身は進化しているのか、もしかすると退化しているのではと感じてしまうことがあります。スウェーデンの精神科医、アンデシュハンセンの書いたスマホ脳という本を読まれた方も多いと思います。スティーブ・ジョブズなどIT業界のトップは自分の子供にスマホなどのデジタルデバイスを与えないらしくスマホを使いすぎることのさまざまな弊害、問題点を書いてあります。ある意味恐ろしい内容でもありましたので娘にも読むようにアマゾンで送りました。後日、感想を聞いてみると面白い内容だったと言っていました。その後もスマホをフルに使っております。私を含めて一旦便利さ、面白さを手に入れるとそこから離れることはかなり難しいと感じた次第であります。



第5回理事会

- I 会長挨拶 <会長>
- II 議題
1. 11月・12月のプログラム(案)について <クラブ奉仕委員長>
<プログラム委員長>
2. クリスマス家族会について <クラブ奉仕委員長>
<親睦活動委員長>
3. 新会員について <幹事>
4. 次年度指名委員について <幹事>

- 5. 刈谷市民管弦楽団第38回定期演奏会後援名義使用について 〈社会奉仕委員長〉
- 6. 出席規定適用免除の申請について 〈幹事〉
- 7. その他

III 会場監督の所見

感謝状授与



刈谷市教育委員会 教育長 金原 宏 様

クラブフォーラム

卓話「教育現場における外国人児童生徒の現状について」



講師 刈谷市立かりがね小学校
中本 幸志 様

1 日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況

日本語指導が必要な児童生徒は全国で51,000人ほど在籍している。特に在籍数が最も多いのは、愛知県で11,000人ほどである。刈谷市は、今年度小中学校に220人ほど在籍しており、県内でも在籍数の多い地域の1つである。令和3年度、刈谷市には21か国にルーツをもつ児童生徒が在籍しており、多いのはフィリピン、ブラジル、中国である。ベトナムについては、この10年間で5倍となった。

2 外国にルーツをもつ児童生徒の現状と課題

外国にルーツをもつ児童生徒の中には、母語や日本語の習得が不十分なままになってしまい、言葉を使って思考をすることが困難な状況になってしまうことがある。アンデンティティの形成に支障をきたすこともある。言葉や文化がわからないことで、日々の生活にこの上もないストレスを感じ、心が悲鳴を上げてしまう子もいる。

3 刈谷市の日本語指導の状況

日本語指導が必要な児童生徒への刈谷市で行っている支援として主に5つあげられる。1つめは日本語適応指導教室である。市内では小学校5校、中学校3校で計20名の教員が専属で指導に当たっている。2つめのプレスクールは、初期指導教室とも呼ばれ、日本語の理解が著しく十分でない児童生徒に、日本語とともに日本の学校の文化やしぐみなどを指導している。市内の2校で設置

されている。3つめは、語学指導員巡回訪問である。ポルトガル語とタガログ語、中国語の指導員が配置されており、各校へ巡回している。語学指導員は母語が話せるので、児童生徒だけでなく保護者への対応やお便りなどの翻訳もしている。4つめの愛教大リソースルームとの連携では、日本語適応指導の教材や教職員の研修、学生ボランティアの派遣などをしてもらっている。5つめは国際交流協会ボランティアスリーエスによる巡回指導である。

4 外国にルーツをもつ児童生徒がいることで……

外国にルーツをもつ児童がいることは周囲の日本の子どもたちにとって、学校が生きた人権教育の場であるとともに、多文化共生の大切さを知り、グローバルな見方・考え方の育成の場になっている。刈谷市のすべての子どもたちにとって、学校生活や日々の生活が、今後、グローバルな見方・考え方をもち、多文化共生を実践していく礎になることを願っている。

